

事例⑥ 開発による生物多様性の保全・回復 (虎ノ門・六本木地区再開発プロジェクト、アークヒルズ)

- 生物多様性の保全・回復に資する取り組みを定量評価・認証する“JHEP 認証[※]”の最高ランク(AAA)を、都市再開発分野において日本で初めて取得(虎ノ門・六本木地区再開発プロジェクト)
- 建物を高層化することで生まれた人工地盤上の敷地や施設屋上の緑化を段階的に進め、緑被率を20年間で21%から37%に向上(アークヒルズ)

※「事業前の過去の状況」と「事業後の状況」とを、植生や当該地域を指標する野生の生きもの(評価種)にとっての住みやすさから自然の価値を比較し、その差を評価、ランク付けするもの

名 称：虎ノ門・六本木地区第一種市街地再開発事業

所在地：東京都港区

計画：森ビル株式会社

カテゴリー：複合施設



既存樹木の保全等に配慮した緑地計画



複合施設外観イメージ

出典：森ビル株式会社提供資料

【虎ノ門・六本木地区再開発プロジェクトにおける取組】

虎ノ門・六本木地区再開発プロジェクト（計画：森ビル株式会社）のコンセプトは「緑の生活都心」で、居住機能と商業・業務機能等が高次に複合した国際性・文化性の豊かな良好で魅力ある街づくりを目指している。同プロジェクトの特徴として、開発段階から環境に配慮した様々な取り組みを行い、地域の自然の再生を目指し、生物多様性の回復や保全に貢献していることが挙げられる。具体的な生物多様性への取組として、

- ・ 在来種・潜在自然植生をベースとした緑地：計画地の地域植生を再生する
 - ・ まとまりのある緑地：緑化効果を高め周囲と結ぶ
 - ・ 緑被ボリュームの高い立体的な緑地：生きものの住みやすさに貢献する
 - ・ 特殊な環境要素：朽ち木・樹洞・落ち葉といった環境要素への配慮
- の4点が同プロジェクトのポイントとして挙げられる。

同プロジェクトでは、緑被率約38%と積極的な緑化が計画されており、日本で初めて都市再開発における緑地計画に対し、生物多様性の保全や回復に資する取り組みを定量評価する認証である“JHEP 認証”の最高ランク（AAA）の認証を、2009年11月に得ている。

【アークヒルズにおける取組】

アークヒルズ（森ビル株式会社）は、オフィス、住宅、ホテル、コンサートホールなどを有する複合施設であり、1986年に竣工した。

開発の大きな特徴として敷地内の積極的な緑化が挙げられる。建物を高層化することで生まれた人工地盤上の敷地や施設屋上の緑化を進め、緑化外構植栽と屋上植栽の区別なく一連の繋がりを持った緑地・公園として整備している。敷地面積に対する緑被率は、竣工当時の約21.3%（当時の緑化基準値は20%）から現在では約37%にまで増加している。これは、土の深さや樹木の配置などにより10m を超える高木の育成までを可能にした屋上庭園づくりや、施設の所有・管理者のみならず、住民やワーカーを中心とした組織による維持管理の成果と言える。このような敷地内緑化によって、人々に憩いの場所を提供するだけでなく、ヒートアイランド現象の緩和に貢献すると同時に、生物多様性保全のためのエコロジカル・ネットワークの構築も期待されている。



アークヒルズの屋上庭園

出典 森ビル株式会社提供資料